

佐野憲次さん

ベーグルSan。オーナー

PROFILE

KENJI SANO

学校を卒業後、地元の食品メーカーに勤務。会社勤めの合間にベーグル作りに目覚め、好きなことを生業にするべく、もともと夢であった田舎暮らしと開業を決意。2020年に設楽町へ移住し、2021年3月3日「ベーグルSan。」をOPEN。

佐野さんの活動場所 ベーグルSan。



④ 愛知県北設楽郡設楽町清崎字小野23
店舗は毎週土曜日OPEN
その他、出店情報などはinstagram
(@bagle_san3)にて発信

ベーグル店も田舎暮らしも

「日々を楽しめているか」

そこに向き合うことが大切



設楽町の山間にある工房兼店舗にて。屋号の「ベーグルSan。」には、「ベーグルさん」というベーグルへの敬意も込められているそう。

歴史浪漫が息づく

設楽の山里で作り上げる

理想のライフスタイル

設楽町清崎地区の山間の中、絵画のように美しい田舎風景の中に建つ『ベーグルSan。』。オーナーの佐野さんは、2年前にこの地へ移住し店舗兼工房を開業。お店は週に一度OPEN。店頭にはレーズンで起こした自家酵母を使い焼き上げる、モチモチ食感と噛みしめるほどに広がる素材の旨味が魅力のベーグルが並びます。

会社員時代から「いつか田舎で自分らしい暮らしがしたい」という、漠然とした夢を抱いていた佐野さん。ものづくりや身体に優しい食にも興味があり、趣味でパンを焼いたり農作をしたりしていたそう。そんな中、卵や乳製品・バターを使用しないベーグルと出会います。

「原材料がとてもシンプルなのに、ぷっくり膨らんだり独特の食感に仕上がったりすることが面白くて。作れば作るほどのめりこんでいきました」と、会社勤めをしながら休日にはベーグルを焼き、イベントに置いてもらったりする中で、長年抱いていた「自分らしい暮らし」の夢がかたちづけられていきます。「ベーグルを笑顔で食べてもらえることが本当に嬉しかったです。当時は仕事の忙しさの中、“本当にやりたいことがやれているのか”と悩んでいる時期でもありました。イベントで“好きなことを生業としている人たち”との出会いも背中をおしてくれたと思います。情報を集め探していた古民家物件がみつかったこと、長男・次男の学校卒業を期に、設楽町への

PLACE

満ちる屋



「ご近所にある、野菜をたっぷり使った美味しいご飯と珈琲、自然食品のお店です」

☎090-6572-7470

📍愛知県北設楽郡設楽町清崎町浦19
→ P28でも紹介しています

THINGS

木と革 aoyamaのチェア



「自宅やお店で使っている木と革のものたち。設楽町へ移住するきっかけをくれた『木と革 aoyama』工房の青山ファミリーが手掛けたものです」

☎090-2163-6175

📍愛知県北設楽郡設楽町清崎字ヶ久保27
→ P54でも紹介しています

EVENT

近所で夏の川遊び



「工房から車で5分。人知れず自分たちだけで楽しむ、穴場で夏の川遊び」



「2011年東日本大震災で世の中の混乱を見て以来、農業など自給生活が必要になると感じました」



「土を詰めた土嚢袋を積み上げていく建築法・アースバッグWSに参加。仲間との出会い、様々な価値観と触れ合えたことが大きかったです」



「旧門谷小学校で開催されたクラフト市『イ・マエストリ』のスタッフを経験。自分時間で楽しそうに生きている方たちと出会い、影響を受けました」

佐野さんの設楽リコメンド

場所、モノ、コト

HISTORY



1.店頭には、プレーン、チョコ、ゴマなどのベーグルが並びます。2.看板は『モザイクアート HASIMOTO・Kamomilla』（→P39でも紹介しています）が手掛けたもの。佐野さんと同じく設楽町へ移住してきたアーティストさんだそう。3.『ベーグルSan.』近くの田園風景。設楽町の魅力は「旧田口線のトンネルが残っていたり、地域のお祭りが語り継がれていたり、田舎ならではの浪漫が息づいているところ」だそう。4.設楽町清崎地区の里山風景の中に建つ『ベーグルSan.』。店先にはベンチがあり、大自然の中でベーグルを頬張れば、その美味しさがより身に染み入るはず！



「やれる範囲で、手作業で作ることを大切にしたい」とお店は土曜日のみOPEN。パン職人さんからの意見も取り入れながら、自分のベーグルを追求。一部商品は『道の駅したら』でも販売中。

移住を決意。会社を退職し、1年間準備を重ね、2021年3月に『ベーグルSan.』をOPENしました。

「朝起きて窓から緑が眺められること、人づき合いの温かさ、地域に根付く伝統行事が体感できるなど設楽町での暮らしは、住んでみてわかる魅力がたくさんあります。実際は会社員時代よりもベーグルの仕込み、草刈り、稲作などやることはいっぱいですが（笑）、自分時間で暮らせていることで、「何か足りない」と思っていたことが満たされていく感覚を味わっています。理想の暮らしをかたちにするのは難しいけど、「日々を楽しめている」ことが一番大切で、そこに向き合い行動することだと思っています。これからも家族と一緒にできる範囲で、理想のライフスタイルを作り上げていきたいですね」。